

第10節 関連団体

1 公益社団法人大牟田市シルバー人材センター

(1) シルバー人材センターの概要

<設 立>

法人格	公益社団法人
設立許可	昭和61年4月1日許可 昭和61年2月25日任意団体設立

<目 的>

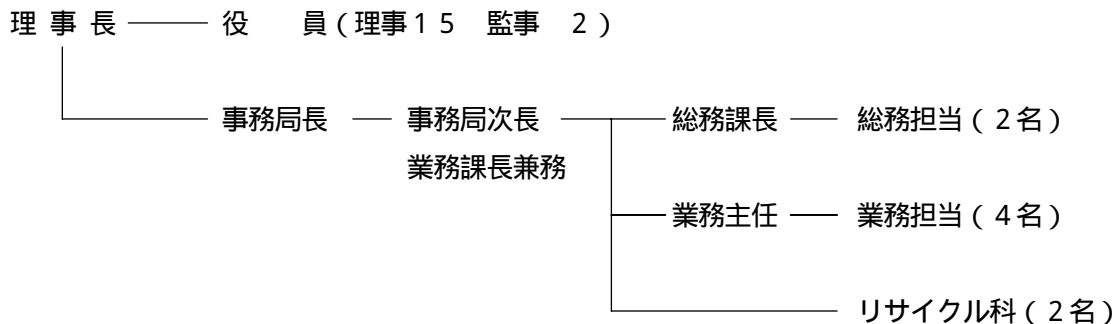
働く意欲と能力をもった高齢者（60歳以上）に、生きがいつくりの場として臨時的かつ短期的なもの又はその他の軽易な業務に係る就業の機会を確保し、組織的に提供することによって、高齢者の能力の積極的な活用を図り、もってその福祉の増進に資するとともに、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とする。

<事業内容>

- 高齢者の就業に関する情報の収集及び提供
- 高齢者の就業に関する調査研究
- 高齢者の就業に関する相談
- 臨時的かつ短期的な就業（雇用によるものを除く）又はその他の軽易な業務に係る就業（雇用によるものを除く）を希望する高齢者に対するこれらの就業機会の確保と組織的な提供
- 臨時的かつ短期的な雇用による就業又はその他の軽易な業務に係る就業（雇用によるものに限る）を希望する高齢者のための無料職業紹介事業及び一般労働者派遣事業
- 高齢者に対する臨時的かつ短期的な就業及びその他の軽易な業務に係る就業に必要な知識及び技能の付与を目的とした講習の実施
- その他高齢者のための臨時的かつ短期的な就業及びその他の軽易な業務に係る就業に関し必要な業務及びセンターの目的を達成するために必要な事業の実施

<機 構>

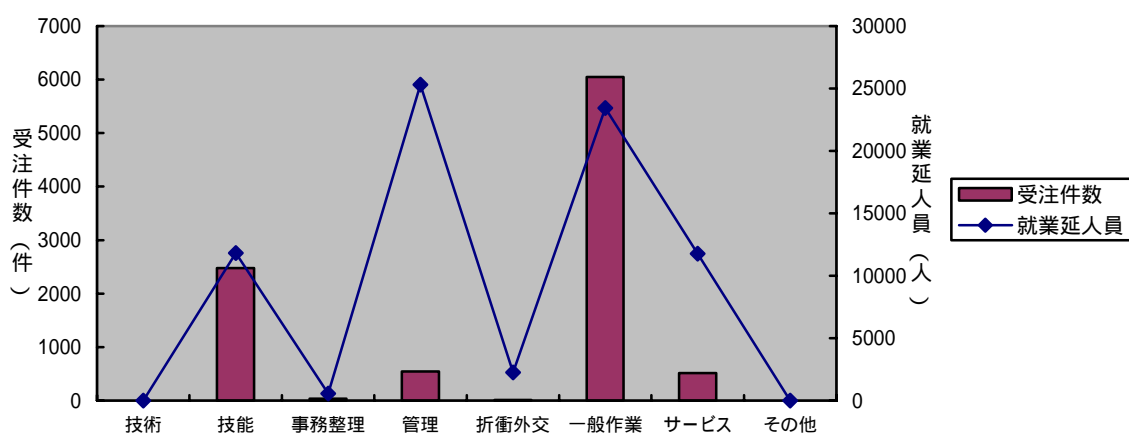
（平成24年4月1日現在）



(2) 平成23年度事業実績及び会員数

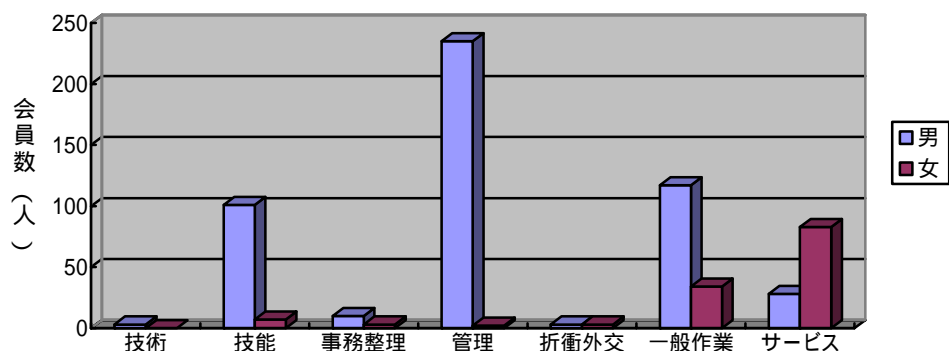
事業実績（職種別）

区分	受案件数	就業延人数	事業収入	構成比
技術	0	0	0	0.0%
技能	2,476	11,809	63,993,967	24.8%
事務整理	37	574	1,674,075	0.7%
管理	545	25,302	82,715,632	32.1%
折衝外交	13	2,264	2,271,850	0.9%
一般作業	6,047	23,440	74,820,096	29.1%
サービス	516	11,764	32,048,198	12.4%
その他	0	0	0	0.0%
合計	9,634	75,153	257,523,818	100%



会員数（希望職種別）

希望職種	男	女	計	構成比
技術	3	0	3	0.5%
技能	101	7	108	17.2%
事務整理	10	3	13	2.0%
管理	235	2	237	37.7%
折衝外交	3	3	6	1.0%
一般作業	117	34	151	24.0%
サービス	28	83	111	17.6%
計	497	132	629	100.0%



1) 事業実績

一般家庭、事業所、公共団体から仕事を受注し、事業を実施した。地域経済の低迷や厳しい雇用情勢の中ではあるが、事業実績は前年度と比べ、微増（前年度比0.2%増）した。

2) 自主運営体制の強化

- (1) 会員の自主的な事業展開を図るため、定期的な職群班長会議等を開催し、活性化に努めた。
- (2) 理事会のもとに8専門委員会を設置し、それぞれの所掌事務について活発な意見交換がなされた。

総務委員会

公益社団法人への移行に向けて、総会運営規程、理事会運営規程等の各規程類の検討及び作成を実施した。

新規事業企画・開発委員会

23年度から新たに設置。新規事業について竹林整備等の議論をした。また、シルバー人材センターのPRチラシやブログ活用等について協議を行った。

就業拡充委員会

23年度から新たに設置し、就業の拡充を図るために、過去の就業実績の検証や後継者育成の必要性について協議した。

業務委員会

就業に必要な知識・技能の研修について、後継者育成と会員の技術等のレベルアップのための一般研修及び班長研修、認定証授与等について協議を行った。

適正就業委員会

就業に関する基準の取り扱いについて、年齢制限の緩和等について協議を行った。

女性委員会

託児ルームの2周年イベント開催や、託児ルームの運営と普及啓発活動等について協議を行った。

安全・衛生委員会

安全就業推進計画、安全講習会、安全訓練、安全パトロール等について協議した。

広報委員会

総会及び夏祭り等の取材、会報ふれあいの編集、カメラ講習の実施、地域での奉仕活動の拡充等について協議した。

3) 安全・衛生、適正就業の強化

「安全はすべて優先する」を基本として、安全・衛生委員会において、安全就業ワッペンの着用、危険予知訓練の実施等について検討した。23年度は猛暑が続いたため、夏場の事故防止と熱中症への注意喚起を行った。23年度は前年度と比べ、傷害事故、物損事故ともに減少した。

4) 役員・会員・職員の研修の実施

理事会研修

公益社団法人への移行に伴い、理事会及び理事の権限と責任が大きく変化することから、福岡県労働局と福岡県シルバー人材センター連合会より講師を迎え、シルバー人材センターの意義、役割等について理事会研修を受講した。

会員研修

各職群研修会、農園インストラクター講座、カメラ講習、他センター視察研修等を実施した。

職員研修

公益法人実務講習会、事務局長研修、業務担当職員研修、県連合会主催の研修等を実施した。

5) 会員の加入促進

センター及び労働福祉会館で月2回の入会説明会を開催した。月末の登録説明会では会員の希望職種と資格や特技等について面談を行い、入会促進に努めた。

6) 就業機会の拡大

23年度から新規事業企画・開発委員会及び就業拡充委員会を新設し、新規事業の取組みと既存事業の課題検討を行うとともに、農業分野の就業開拓、ポスティング事業、パソコン入力等の事務系就業開拓に取り組んだ。

7) 奉仕活動と普及啓発活動

地域への感謝の気持を込め、公共施設等の剪定奉仕活動を実施。また、今年度からシルバー人材センターとして夏祭り総踊りへ参加し、翌日の清掃奉仕活動にも積極的に取り組んだ。

10月のシルバー人材センター事業の普及啓発月間に、会報ふれあい特別号を編集・作成し、ゆめタウンにおいて市民へ手配りでの配布を実施した。

8) 独自事業・受託事業の推進

独自事業であるリサイクル事業については、地域消費力の低下、類似店の開店等により、リサイクル品の販売額は前年度と比べ13%減少した。昨年の石けんに付加価値をつけた新商品の開発・販売につづき、さらなる新商品の開発や販売力の強化に努める必要がある。

受託事業のリサイクル科については、センターの蓄積した経験と技術を活かし、23年度も福岡県立大牟田高等技術専門校の職業訓練を前期、後期の二期受託した。

2 社会福祉法人大牟田市社会福祉協議会

根拠法令等	社会福祉法（第109条）	所管課	保健福祉総務課 地域福祉推進室
-------	--------------	-----	--------------------

(1) 社会福祉協議会とは

社会福祉協議会は、社会福祉法に位置付けられ、住民の社会福祉に対する関心と理解を深め、地域における社会福祉の増進に努めるという理念のもとに、全国の都道府縣市町村に設立されている。民間組織としての「自主性」と住民や社会福祉関係者に支えられた「公共性」という2つの側面をあわせ持った組織で、地域住民による福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整及び事業の企画・実施等を行い、地域福祉活動の中心的な役割を担っている。

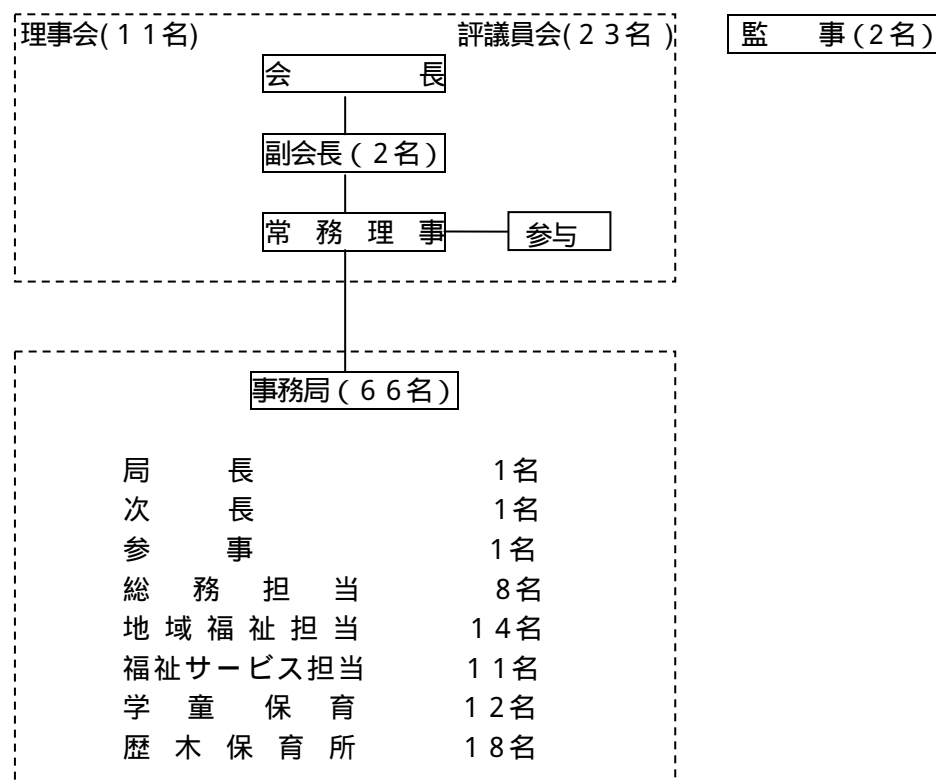
平成12年に社会福祉事業法が大幅に改正され社会福祉法となり、その第109条では、社会福祉協議会は、「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」と明記された。

大牟田市社会福祉協議会は、昭和26年に任意団体として発足し、昭和47年に社会福祉法人の認可を受け、以来、大牟田市の地域福祉の推進役として住民のニーズにあった様々な事業活動を展開している。

現在は、「地域福祉推進と絆」をキーワードに、地域における様々な生活上の諸問題を地域全体の課題としてとらえ、みんなで考え、話し合い、協力して解決を図る心ふれあう「誰もが安心して暮ることができるまちづくり」を目指し、関係機関・団体および行政等と協働して、様々は福祉課題の解決に積極的に取り組んでいる。

(2) 社会福祉協議会の機構と組織構成

(平成24年8月1日現在)



評議員及び理事選出区分一覧表			
区分	所 属 名	評議員	理 事
1	校 区 社 会 福 祉 協 議 会 代 表	6	1
2	民 生 委 員 ・ 児 童 委 員 代 表	2	1
3	町 内 公 民 館 連 絡 協 議 会 代 表	1	1
4	社 会 福 祉 事 業 施 設 代 表	2	1
5	福 祉 団 体 代 表	3	1
6	ボ ラ ン テ ィ ア 団 体 代 表	1	1
7	N P O 法 人 代 表	1	0
8	社 会 福 祉 関 係 公 務 員 代 表	1	1
9	市 議 会 代 表	1	1
10	学 識 経 験 者	5	3
合 計		23名	11名

(3) 社会福祉協議会の実施事業

全国的な少子高齢化のますますの進行、人口及び世帯人数の減少による家族力の低下及び地域の連帯感の希薄化、また認知症対策をはじめとした福祉ニーズの多様化など社会情勢の変容は年々大きくなっています。

高齢化率30%を超えた本市においても、暮らしの中の様々な生活課題が家族や地域で解決できず深刻化している事例が見受けられます。

昨年3月に発生した東日本大震災被災地支援のための「東日本大震災復興支援プロジェクトおおむた」の活動を通して改めて住民相互の支え合いや助け合いの重要性が見直され、新たなコミュニティづくりを図る動きも広がりを見せており、それに伴い市民意識も変わりつつあります。

そのような中、地域福祉の推進役としての社会福祉協議会の使命は非常に重要であり、様々な情報、交流、ネットワーク活動を行政や関係機関と共有していくことが求められています。地域福祉計画、地域福祉実践計画の基本理念である「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまちづくり」を推進するために「多職種協働」で取り組んでいく必要があると考えています。

上記の状況を踏まえ、平成23年度事業においては、第2次地域福祉実践計画の3本の活動指針に沿って報告いたします。

活動指針1 「つながり、支えあいのある“あたたかい地域”を実現します！」

各校区社協構成員に対する意識調査を行い、今後の活動につなげていくことを目的とした「校区きずな力アンケート調査」を実施し、結果をフィードバックすることにより、今後の地域づくりに役立てるとともに、「見守り・訪問活動」を組織的に行う小地域ネットワーク活動の充実など校区社会福祉協議会会長連絡協議会と連携して事業に取り組みました。

また、高齢者等の憩いの場、介護予防の場、子育て支援の場としてのサロン実施の拡大に取り組みました。

子育て支援においては、大牟田市歴木保育所の民間移譲先に選定され、子どもたちの保育に支障がないよう、保護者、行政と一緒に引継業務を行いました。さらに市受託事業として、子育てサロン名人発掘事業や学童保育所運営事業、ファミリーサポートセンター運営事業などに取り組みました。

活動指針2 「小さな声にも応える福祉サービスを提供し、普及に努めます！」

公的サービスでは対応できない生活・福祉課題を抱えている高齢者等を対象に、生活支援サービスを実施する担い手である生活・介護支援サポーターを養成し、おおむたキャロットサービスへの登録を行い、サポーターとして派遣しサービスを実施しました。

高齢者等福祉対策については、高齢者、障がい（児）者に対する介護保険事業・障害者自立支援事業をはじめ、住民の悩みなどを解決に導く総合相談事業、低所得者等に対する貸付事業（県社協受託事業）等に取り組みました。

また、広報については、機関紙「きらり」の発行をはじめ、社協ホームページの充実、事務局通信「きらり」の月1回発行など、情報提供の充実に努めました。

活動指針3 「誰もがまちづくりに参加できる活動をすすめます！」

ボランティアセンターの充実強化のため、個々のボランティアが自分の希望する活動を選択できるよう、ボランティアニード情報誌を作成し、コーディネート機能の充実に努めました。

また、手話をはじめとする各種技能養成講座、障害福祉総合ボランティア養成講座、市民後見人実践講座などの各種養成講座や第2回共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会&社協“絆”フェスティバル、第3回大牟田市地域福祉大会、知的障がい児・者医療支援体制プロジェクトなど、多職種協働で様々な事業に取り組みました。

(4) 校区社協活動への支援

校区“きずな力”アンケート調査

各校区住民の地域福祉に対する意識を把握し、今後の福祉座談会や研修会等にて情報共有を図り、地域福祉力の向上に向けた各校区の取り組みを検討することで、「よりよい地域づくり」につなげていくことを目的に実施した。結果については各校区における福祉座談会、合同研修会等でフィードバックを行い、ふれあい活動推進員、福祉委員、民生委員等の連携の必要性や今後の地域福祉活動の「仲間づくり」につなげる上でのふれあい活動推進員を普及していくことの意義について、参加者の理解を深めた。

【対象】各校区社会福祉協議会構成員（900名程度）

【期間】平成23年 7月8日～8月5日

【回収率】70.9%

新任校区社協会長研修会の開催

新任の校区社会福祉協議会会長を対象に、大牟田市社会福祉協議会の概要説明と校区社会福祉協議会の役割や活動内容についての研修を行うことで、地域福祉活動に対する理解を深めることを目的に開催した。

【開催日】平成23年6月24日（金）

【場所】大牟田市総合福祉センター ミーティングルーム

【内容】社会福祉協議会とは 新校区社協ハンドブックについて

【参加者】3名（玉川校区・平原校区・銀水校区）

校区社協会長研修会の開催

校区社協会長が大牟田市の地域福祉の現状等を捉え、各々の校区社協で連携を深めることにより自校区での地域福祉活動の向上を図ることを目的に校区社協会長研修会を開催し、各校区間での情報交流・親睦を図った。

【開催日】平成23年11月21日（月）

【場所】総合福祉センター 大会議室

【内容】講演会

校区社協による今後の地域づくりについて

～校区“きずな力”アンケート調査結果より～

講師：熊本学園大学 社会福祉学部 教授 和田 要 氏

意見交換会

・校区きずな力アンケート結果を踏まえた、自校区の良い点・改善点

・それを踏まえ、今後校区社協として取り組みたいこと

【参加者】16名

校区社協・校区民児協・校区連協合同研修会の開催

地域リーダーである各校区社協・民児協・連協の会長が、地域福祉活動の推進方法等を研修・研鑽することを目的に「これからの地域福祉のあり方」をテーマとした合同研修会を開催した。

【開催日】平成23年9月26日（月）

【場所】総合福祉センター 大会議室

【内容】これからの地域福祉の在り方について ～校区“きずな力”アンケート調査結果をもとに～

講師：熊本学園大学 社会福祉学部 教授 和田 要 氏

【参加者】61名

(5)小地域ネットワーク活動の充実

福祉委員制度によるネットワーク活動強化

本会では地域における小地域ネットワーク活動を活性化していくために、平成18年度に福祉委員制度を発足した。きめ細かな地域福祉サービスや情報が校区全域に伝わるよう、各校区の世帯に応じ、概ね100～150世帯に1人の割合で福祉委員が見守り・訪問・支援活動を行っている。平成23年度は、370名が福祉委員として市内各地で活動した。

平成23年8月2日～6日にかけて「福祉委員の役割」をテーマに大牟田市総合福祉センターにて福祉委員研修会を開催したほか、各校区における小地域ネットワーク活動での福祉委員や民生委員・児童委員との連携等、地域福祉活動に関する課題や解決策等について意見交換を行う福祉座談会を下記のとおり実施した。

(福祉座談会の実施状況) 市社協が出席した分のみ掲載

開催日	校区	開催日	校区
7月2日(土)	手鎌校区	12月15日(木)	中友校区
7月29日(金)	銀水校区	1月18日(水)	平原校区
8月25日(木)	玉川校区	1月25日(水)	三池校区
9月28日(水)	みなと校区	2月18日(土)	手鎌校区
10月7日(金)	駛馬南校区	2月19日(日)	倉永校区
11月14日(月)	天道校区	2月24日(金)	高取校区
11月17日(木)	羽山台校区	3月18日(日)	天道校区
12月4日(日)	吉野校区	合計	15回

おおむたキャロットサービス(住民参加型福祉サービス)

生活・介護支援サポーター養成講座修了者を対象に、サポーター登録を行い、生活課題を抱えている一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がいがある人などに、制度の狭間などで公的な福祉サービスでは対応できない生活支援サービス(おおむたキャロットサービス)を平成22年7月より開始した。

(おおむたキャロットサービス会員数)

利用会員
84名
協力会員(サポーター)
26名

(おおむたキャロットサービス活動内容及び活動状況)

活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
掃除・洗濯(家事支援)	20	20	16	17	19	12	29	17	27	22	55	39	293
買物	2	1	1	3	1	2	2	4	3	4	10	19	52
薬とり						1		1			1	2	5
見守り			1			4	6	4	4	5	5	2	31
食事づくり				3			3	5				1	12
草取り	11	10	14	7	7	10	9	6	3			4	81
通院など外出付添い	11	4	7	6	8	9	15	8	7	18	11	5	109
家屋の修理				4		3		3	1				11
その他	3	3	4	8	4		1	2	1	1	5	8	40
合計	47	38	43	48	39	41	65	50	46	50	87	80	634

多職種・多分野協働のまちづくり

平成23年度は、福祉団体・行政等多職種協働で様々な事業を実施した。

【多職種・多分野協働の主な事業】

第8回徘徊SOSネットワーク模擬訓練
第33回パラリンピック&サンアビまつり
共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会&
社協“絆”フェスティバル
ふるさと福祉職場合同説明会
障害総合福祉ボランティア養成講座
市民後見人実務養成講座
商店街いきいきふれ愛あきない祭
認知症絵本教室
知的障がい児・者医療ニーズ調査プロジェクト
認知症高齢者徘徊搜索活動
東日本大震災復興支援～絆～プロジェクトおおむた

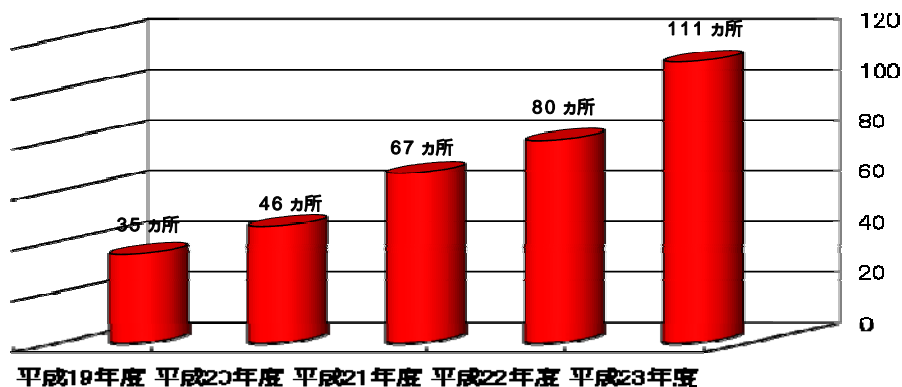
他

(6)ふれあいサロン活動の拡大

ふれあいサロン事業の推進

地域に住む高齢者や子育て中の人達や障がいを持った人達が地域で楽しく過ごす憩いの場、集いの場として重要視されている“ふれあいサロン活動”を市内全域に拡大した。中でも既存の高齢者サロンに子育て中の人たちを巻き込んだサロンを16カ所開設した。3月末現在で111カ所がサロンとして登録している。

ふれあいサロン活動実績の推移（3月末現在）



サロン事業の情報提供

登録されているすべてのサロン活動者に呼びかけて、年2回サロン連絡会を開催し、サロン活動のメニュー紹介やサロン活動の実践発表を行うなど、情報交流を図った。

(7)子育て支援の充実

子育てサロン・子育て名人発掘事業（市受託事業）

子育てサロン・子育て名人発掘事業は、子育て世代の居場所を増やすことと、子育て経験者が持つ暮らしや子育ての知恵を若い世代に伝える機会をつくることを目的としている。

“お世話焼きさん”という子育て名人を発掘し地域で多世代交流ができる子育てサロンを広げ、お話会やフェスタを実施することで、地域の子育て支援者を発掘・登録し、子どもや子育て中の親の相談・支援に繋げた。

【子育てサロン開設数】 16カ所

【子育て名人登録者数】 36名

開催日	事業内容	参加人数	開催場所	備考
6月29日	第7回 子育てきらりフェスタ 開催	215人	総合福祉センター	
6月30日	やらんといかんばい瓦町 開設	29人	総合福祉センター	第3水曜日
8月24日	集まろう会 開設	30人	地域交流施設『すいせん』	第3水曜日
9月10日	第8回 子育てきらりフェスタ 開催	227人	諏訪公園	
10月12日	かたらいの森 ひばりヶ丘 開設	22人	かたらいの森 ひばりヶ丘	第2水曜日
11月12日	にこにこサロン白川 開設	15人	白川小学校	第2土曜日
12月4日	第9回 子育てきらりフェスタ 開設	109人	総合福祉センター	
1月12日	子育てサロン「うさぎちゃん」開設	8人	地域交流施設『わたげ』	第2・4水曜日
1月23日	MILK KIDS開設	17人	大牟田市民体育館	毎週月曜日
1月26日	天道サロン開設	71人	天道小学校	第3日曜日
3月8日	第1回 子育てコーチング講座	57人	総合福祉センター	
3月15日	第2回 子育てコーチング講座	47人	同上	
3月22日	第3回 子育てコーチング講座	49人	同上	
3月31日	槐三里にこにこサロン開設	17人	地域交流施設『槐』	第3土曜日

子育て情報誌「れみい」の発行

「子育て中、いざという時にどうしていいかわからない」「転勤などで周りに親類・知人もいない」という人や将来子どもを産み育てていく女性に向けて、子育て情報誌「れみい」を発行した。子育て特集記事をはじめ、公私の子育て支援事業、育児相談や働くお母さんのインタビューや小児科・産婦人科などの医療情報やお店など、大牟田での子育てが楽しいと思っただけの役立つ情報が満載の情報誌として、好評を博している。平成23年度は、4月、10月発行。

おもちゃの図書館「くるりん」開設

おもちゃの図書館「くるりん」は、障がいのある子どもたちが、おもちゃを通して楽しく遊ぶことができるようにとの願いから始まったボランティア活動。障がいのある子どもたちは、遊びの機会に欠け、また上手に遊べない傾向があることから、たくさんのおもちゃを用意して、気にいったおもちゃを選んで遊んでもらい、家でも楽しく遊べるように貸し出しするのが「おもちゃの図書館」の活動。平成22年10月に「くるりん」開設。毎月第4土曜日に開催している。

(8)ファミリー・サポート・センター事業(市受託事業)

子育てのお手伝いをしたい人(協力会員)と子育ての手助けをしてほしい人(利用会員)との相互援助活動(コーディネート)を行うとともに、サポーター(協力会員)養成講座の実施や事業の周知啓発に努めた。

(養成講座の開催)

サポーター養成講座	平成23年6月23日(木)・6月30日(木) 2日間 15名登録
ステップアップ講座	平成23年8月11日(木)・10月20日(木) 平成24年3月8・15・22日(木)
フォローアップ研修	平成24年1月27日(金) 午前・午後
10周年記念講演会	平成23年12月4日(日)

(ファミリー・サポート・センター会員数の推移)

	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)	23年度	前年比(%)
利用会員	656	98.7	623	94.9	675	108.3
協力会員	112	102.7	120	107.1	128	106.7
相互会員	78	102.6	80	102.5	87	108.8
合計	846	99.6	823	97.2	890	108.1

(ファミリー・サポート・センター活動内容及び活動状況)

活動の主な内容	21年度 件数	22年度 件数	23年度 件数	前年比 (%)
保育所・幼稚園・学校・学童の登園登所前の預かり及び送り	146	332	144	43.3
保育所・幼稚園・学校・学童の迎え及び帰宅後の預かり	119	258	249	96.5
子供の病気時の援助	11	24	27	112.5
子供の習い事等の場合の援助	136	189	278	147.1
保育所・学校等休み時の援助	2	19	16	84.2
保護者等の短時間・臨時的就労・求職活動中の援助	24	11	51	463.6
保護者の冠婚葬祭による外出、他の子供の学校行事の場合の援助	2	0	3	300.0
保護者等の外出の場合の援助	35	62	79	127.4
保護者の病気、その他急用の場合の援助	6	81	129	159.3
その他	22	2	19	950.0
合計	503	978	995	101.7

(9) 放課後児童健全育成事業(学童保育所・市受託事業)

放課後児童対策として、昼間児童の養育ができない家庭などの児童(小学校1年生～概ね小学校3年生)に対して、適切な遊びと生活の場を提供することにより、児童の健全育成を図った。

(入所児童数:平成24年3月31日現在)

学童名	三池	高取	中友	白川	大牟田	平原	合計
児童数(人)	27	18	15	42	43	10	155

(10) 歴木保育所の引継

大牟田市立歴木保育所の民間移譲を受け、平成24年4月1日の開所に向けて、園児に与える影響を最小限に抑えることを目的とした保育所運営の引継ぎ等について下記のとおり実施した。

月日	内容	月日	内容
4月8日	大牟田市に申請書提出	12月6日	三池校区社協役員会出席
4月25日	事業者選定委員会	2月1日 ~2月8日	園長、主任による保育士、調理員面談
5月2日	事業者決定通知受領	2月9日	職員オリエンテーション実施
6月10日	二者協議実施(市、社協)	2月17日	職員に内定通知書交付
6月27日 ~7月1日	保育士、調理員面談	2月25日	三者協議実施 (次年度保育内容、行事等確認)
8月27日	三者協議実施 (市、社協、保護者代表)	3月3日	クラス別保護者懇談会 (次年度保育内容、行事等説明)
9月1日	引継仮協定書締結及び園長、主任保育士内定	3月31日	保育所引継式実施(市、社協)
10月1日	引継保育開始(園長)		

(11) 高齢者福祉対策の推進

介護保険事業の充実

訪問介護(ホームヘルパー派遣) 訪問入浴(入浴車による訪問入浴) 居宅介護(ケアプランの作成)の3事業を実施し、要支援、要介護者の在宅生活を支援した。

小規模デイサービス「ふれあい処えている」開所

平成24年3月1日より、利用者である高齢者及び障がい者が集い・楽しみ・それぞれが役割を見つけ、担うことができる場所として制度内事業はもとより、社協の他事業との連携を図りながら、制度の狭間のサービスにも対応し、セーフティネットとしての機能をもつ事業を展開していくことを目的とした“小規模デイサービス「ふれあい処えている」”を開所した。

介護予防・相談センターの運営(市受託事業)

中央地域包括支援センターのサブセンターとして、上官・平原校区を担当し、介護認定により要支援と認定された高齢者及び配食サービス等の地域支援事業利用希望者等に対して、介護予防プラン等を作成するとともに定期的な訪問を行うことにより高齢者の心身の健康保持、生活の安定のために必要な支援を関係機関、サービス実施事業者等と連携して実施した。また生活管理指導員を派遣し、必要な家事を予防的な観点から実施した。その他195件の相談対応を実施した。

新たな取組みとして、高齢者が多い龍湖瀬県営住宅(平原校区)を対象に、介護予防と地域住民のつながりを構築するために、集会所を活用し、月に1回のサロンを開設した。平成23年8月の準備段階から関わり、10月にスタートして毎回約20名の参加がある。

今後も、担当校区内で、高齢化率の高い地域でのサロン作りを実施していく。加えて、平原校区にある介護予防拠点・地域交流施設「ひらばる」「くぬぎ」「たんぼぼ」の3ヵ所と連携し、3カ月に1回、地域における様々な情報の交換・共有の場として、平原校区地域交流施設連絡会議を開催していく。

(各年度事業実績)

事業名		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
介護予防・相談センター	収入(円)	3,056,800	3,129,000	3,511,080	3,442,720	3,779,360
	件数(件)	476	621	701	660	762

「在宅介護者の会」の活動支援

在宅介護者に対する情報提供、相互交流を目的とする2つの「在宅介護者の会」の事務局を担い、様々な活動支援を行った。

大牟田市在宅介護者の会「げんきかい」...会員数24人

【目的】在宅介護者が本音で語り合い、交流することを通じて、「介護」にかかる課題を解決していくことを目的に実施。

【定例会】毎月第4水曜日に実施。

おしゃべり会を中心に、学習会、カラオケ大会などを実施。また、年2回、日帰り温泉旅行などリフレッシュ事業にも取り組んだ。

認知症在宅介護者の会「つどい語らう会」

【目的】介護家族が安心して介護を続けられ、介護が困難になっても本人と家族が、より良く暮らしていけるようにするための専門的、継続的なサポートを提供。

家族が主体となった家族会の発足。

【定例会】毎月第3木曜日に実施(地域交流施設を会場として活用)

美容と健康のためのケアピクスや学習会、もの忘れ相談医による個別相談、レスパイトケア、カフェなどを実施。

日常生活自立支援事業(福祉サービス利用援助相談)

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分なため、日常生活に困っている人たちに対して生活支援員を派遣し、自立した生活ができるよう福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理等を行った。

(実施状況)

	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)	23年度	前年比(%)
人数	17	106.3	20	117.6	27	135
件数	145	87.3	227	156.6	451	198.6

車椅子貸出事業

在宅の高齢者・障がい児・者等に対して、日常生活の便宜と介護者の負担軽減を図るため、延95人に無料で車椅子を貸し出した。

(12)障がい児・者福祉対策の推進

障害者社会参加促進事業(市受託事業)

障害者の自立と社会参加の促進を図るため、手話、朗読、点訳、要約筆記の各奉仕員養成講座を総合福祉センターで実施するとともに、個人・団体等の要請に対して、要約筆記奉仕員を派遣した。また、視力障害者の情報収集のために「点字や声の広報」を実施した。新たな取り組みとして「手話」についての知識をより多くの市民に広げるために「ミニ手話講座」を総合福祉センターにて実施した。

(各講座の実施状況)

講 座 名		概 要
手話奉仕員養成講座	入門	【期 間】平成23年6月2日～平成24年1月19日(毎週木曜日30回) 【受講者】28名 【修了者】28名 【入会者】20名
	基礎	【期 間】平成23年10月1日～11月26日(毎週土曜日8回) 【受講者】29名
朗読奉仕員養成講座		【期 間】平成23年5月12日～7月21日(毎週木曜日10回) 【受講者】10名 【修了者】9名 【入会者】9名
点訳奉仕員養成講座		【期 間】平成23年5月20日～7月22日(毎週土曜日10回) 【受講者】10名 【修了者】5名 【入会者】5名
要約筆記奉仕員養成講座 (手書き・パソコンコース)		【期 間】平成23年9月17日～11月26日(毎週土曜日11回) 【受講者】7名 【修了者】5名 【入会者】5名

障害者自立支援サービス事業

障害区分認定を受けた在宅の障がい者に対して、居宅サービス(ホームヘルパー派遣)、訪問入浴(入浴車による訪問入浴)、移動支援(ガイドヘルパー派遣)の3事業を実施し、在宅生活を支援した。

障がい児・者余暇活動

生活を豊かに彩る余暇の時間。学校でも仕事でも家でもない余暇の時間をどう過ごすかによって、生活における充実感が大きく変わってくる。平成23年度、障がい児・者が余暇を過ごす新たな場づくりになればとボランティアと下記のとおり余暇活動に取り組んだ。

(余暇活動状況)

日 程	余 暇 活 動 内 容	参加者(ボランティア含む)
平成23年8月21日(日)	三池光竹の竹灯籠をつくろう!	16人
8月28日(日)	おいしいスイーツをつくろう!	14人
9月4日(日)	体が楽器だ! ボディパーカッション	16人

種まき大作戦セミナー ～笑顔の花を咲かせましょう～

(「障がい者をお持ちの方の生活を考える研修会」日本社会福祉弘済会助成事業)

私たちが生活する中で「日常的な事」が、障がいがあるゆえに「困難な事」と感じる人もたくさん暮らしている。そこで、障がいの世界を少しでも知っていただき、生活しやすい地域づくりの「きっかけ」になることを目的に、「障がい者をお持ちの方の生活を考える研修会(種まき大作戦セミナー)」を開催した。

(研修会開催状況)

日程	セミナー内容	研修・講義(講師名)	参加者
6月10日	「障がい理解について」 ～障がいについて導入～	グループワーク	10名
9月28日	「発達障害を考える」	川崎医療福祉大学 特任教授 佐々木正美さん	72名
10月2日	「生きがいづくり・音楽バンドに学ぶ」	ピュアハート	54名
10月13日	「障がい者に学ぶ共生のまち」 ～事例を通して考えよう～	社会福祉法人 東翔会 小規模多機能ホーム みえあむ管 理者 小沼 真理子 さん	21名
11月20日	「発達障害の理解」 ～子育てや日常診療の中で～	自閉症児を家族に持つ医師・歯科医 師会 副会長 くもと発育クリニック院長 岡田 稔久 さん	70名
12月5日	「障がい児・者が 暮らしやすい地域づくり」 ～地域ネットワーク 人づくり～	NPO法人 地域生活支援ネット ワーク サロン理事兼事務局顧問 日置 眞世さん	42名
3月28日	「知的障害児・者の 医療受診の現状について」	グループワーク	40名

(13)総合相談事業の推進

福祉サービス苦情解決相談

在宅福祉サービス利用における様々な問題について、当事者間で解決できない場合「第三者委員会」でその解決を図るため設置しているが、平成23年度は相談依頼がなく、開催していない。

行政書士による法務相談

毎月第3水曜日に行政書士による法務相談を実施し、家庭、離婚、金銭貸借、財産相続、事故などの相談に親身になって対応し、高度な対処法については無料弁護士相談や関係機関へ橋渡しをした。平成23年度実績は、56件。

生活福祉資金貸付事業(県受託事業)

低所得者、高齢者及び障がい者等の世帯に対して、生業、住宅、災害、福祉、修学、緊急小口、離職者等の各種資金の貸付相談の受付を行い、民生委員の協力のもと、借受世帯の自立に向けた指導、支援を行った。

【相談受付件数】336件

【貸付件数】46件

(生活貸付福祉資金状況)

(単位：千円)

	21年度		22年度		23年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
生活支援費	14	7,209	27	11,630	6	2,691
住宅入居費	2	379	1	129	0	0
一時生活再建費	4	699	6	721	0	0
福祉費	1	61	8	8,423	8	9,460
緊急小口	16	1,400	28	2,660	22	2,100
教育支援費	9	10,309	11	18,320	3	4,422
就学支度費			10	2,499	7	1,560
その他			1	140	0	0
合計	46	20,057	92	44,522	46	20,233

住宅手当緊急特別措置事業（市受託事業）

住宅手当緊急特別措置事業は、離職者であって就労能力・就労意欲のある人の中で、住宅を喪失しているか、喪失するおそれのある人に対して住宅手当を支給することにより、これらの人に住宅及び就労機会の確保に向けた支援を行うことを目的としている。この事業を実施するに当たっては、市保護課やハローワークと連携し、「福祉から就労」支援事業を活用したり、必要に応じては本会が窓口である生活福祉資金貸付事業を併用しながら、当事者の支援にあたった。

【相談件数】 83件
（うち面接相談68件、電話相談15件）
【申請件数】 16件
【支給決定件数】 16件
【就職決定者数】 13件

(14) 社協広報の充実

広報紙「きらり」の発行

年4回（4月・7月・10月・1月）全世帯を対象に発行している社協福祉情報「きらり」を発行した。

社協事務局通信「きらり」の発行

毎月1回、社協事務局通信「きらり」を発行し、タイムリーな情報を提供した。

社協ホームページ（<http://www.omshakyo-kizuna.com/>）

社協の様々な活動・事業内容を紹介、また社協職員日記を毎日掲載した。

「点字・声の広報」の発行（市受託事業）

視力障がい者が地域生活する上で、必要な情報などを「点訳奉仕大牟田むつき会」や「大牟田朗読の会」の協力を得て、点字や音声によって定期的に情報を提供した。

(15) ボランティアセンター充実強化

ボランティア情報提供と啓発

地域において、ボランティアを必要とする人とボランティアをしたい人を結びとともに、ボランティアが自分の希望する活動を選択できるよう、コーディネート機能の充実に努めるため、登録団体名簿・ボランティアニード情報誌を作成し、各関係機関に配布した。

また、登録団体・個人に今年度より年1回の登録継続アンケートを送付。ボランティア活動継続についての意識確認を行った。

コーディネート機能の強化

地域において、ボランティアを必要とする人とボランティアをしたい人を結びとともに、ボランティアが自分の希望する活動を選択できるよう、コーディネート機能の充実に努めた。

また、個人登録者に今年度より年1回の登録継続アンケートを送付し、意思確認を行った。

（ボランティアセンターの登録状況）

	21年度	前年比 (%)	22年度	前年比 (%)	23年度	前年比 (%)
グループ(団体)	54	117.4	52	96.2	35	67.3
個人(人)	230	110.0	61	26.5	16	26.2

傾聴ボランティア養成講座

地域におけるコミュニケーションの希薄化が進む中、「心の豊かさ・心のケア」が求められる
 昨今、相手の気持ちに寄り添い、心を込めて話を聴く「傾聴ボランティア」を養成することにより、その悩みや寂しさの解消への一端を担うことを目的に「傾聴ボランティア養成講座」を開催した。

第1回 平成23年10月29日
 第2回 平成23年11月11日
 第3回 平成23年11月18日
 第4回 平成23年11月25日
 第5回 平成23年12月2日

(受講者)19名 (修了者)8名

要約筆記ボランティア派遣(市受託事業)

聴覚障がい者の社会参加を促進するために、体育大会、福祉活動、文化活動、研修会等に要約筆記奉仕員を派遣した。

(派遣状況)

		21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)	23年度	前年比(%)
要約筆記	派遣件数	28	147.4	20	71.4	19	95
	奉仕員数	87	161.1	62	71.2	66	106.5

ボランティア活動保険加入

地域行事やボランティア活動等を支援するため、ボランティア活動保険の加入受付を行った。

(加入状況)

	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)	23年度	前年比(%)
加入者数	2,591	90.0	2,820	108.8	2,911	103.2

生活・介護支援サポーター養成講座「絆塾」(市受託事業)

介護保険制考え、地域の高齢者や障がい者等の個別ニーズに応えるため、ちょっとしたお手伝いができる市民サポーターを養成するために、今年度は東日本大震災の被災地で求められている「絆」を教訓に、大牟田で必要な「絆」について考え、学ぶ「絆塾」と銘打って生活・介護支援サポーター養成講座を開催した。

平成23年12月6日～平成24年2月7日、毎週火曜日全8回の講座を実施。

毎回約30人が受講し、セミナー終了後12名がサポーターとして登録した。

回数	講師名	講座テーマ	参加者数
第1回	共同支援ネットワーク石巻事務所 統括責任者 武田 和典さん	東日本大震災から学ぶ「絆」	28人
第2回	九州大学大学院 教授 坂口 光一さん 大牟田市認知症ケア研究会 代表 大谷 るみ子さん	ケアの世界にもっと素敵な物語を	29人
第3回	大牟田市社会福祉協議会 福祉サービス担当職員	高齢者疑似体験 「歳をとるってどんな感じ？」 訪問する時の心得	30人
第4回	高齢者総合ケアセンターこぶし園 総合施設長 小山 剛さん	災害時に高齢者・障害者を支える サンダーバードの経験から 「絆」づくりからみえるもの	42人

第5回	九州大谷短期大学表現学科 教授 齋藤 豊治さん	コミュニケーションを豊かにする 表現法	28人
第6回	九州大谷短期大学表現学科 教授 齋藤 豊治さん	コミュニケーションを豊かにする 表現法	41人
第7回	体験実習	各訪問先にて	20人
第8回	共同支援ネットワーク石巻事務所 統括責任者 武田 和典さん 下関市「有歩道」 管理者 吉宗 誠さん	体験実習を終えて意見交換 大牟田の「絆」とは... 今後の活動について	30人

障害福祉総合ボランティア養成講座

障がいに対する理解をより一層深め、当事者と地域との架け橋となっただけのボランティアの養成を目的として、今年度は高校生を対象に大牟田市障害者協議会、障害者相談支援センターと協働で開催した。

成年後見活用講座

地域社会における権利擁護の推進を図るためにより多くの人々に成年後見制度を理解し、活用してもらえることを目的として、大牟田市、大牟田市高齢者・障害者権利擁護連絡会、成年後見センター・リーガルサポート福岡支部と協働で開催した。

【開催期日】平成23年1月19日～2月16日の毎週水曜日・全5回

【定員】30名

【研修内容】「人権・権利擁護」「法定後見制度の概要」「認知症及び精神・知的障がいについて」「契約」「任意後見制度の概要」「家庭裁判所について」等

第2回大牟田市地域福祉大会～地域支えあい絆セミナー～

市民一人ひとりが大牟田市の地域福祉の現状について認識を深めるとともに、自ら住んでいる地域に積極的に関わりを持ち、自助・互助・共助によるまちづくりをすすめていくことの重要性について理解を深めることで、地域住民の地域住民による、地域住民のための「支えあいの“絆”」を創造することを目的に開催した。

【日時】平成24年3月3日(土) 9:30～12:30

【場所】大牟田文化会館小ホール

【主催】大牟田市地域福祉大会実行委員会

【共催】大牟田市社会福祉協議会、大牟田市、大牟田市ボランティア連絡協議会

【参加者】約400名

【内容】

(第1部) 大牟田市社会福祉協議会 功労者表彰式典

(表彰の部)

校区社協実践活動者(20名)

優良校区社協(みなと校区社協)

ボランティア活動団体(3団体)

(感謝の部)

校区社協実践活動者(49名)

ボランティア活動団体(1団体)

善意銀行高額寄付者・団体(1団体・1名)

(第2部) 基調講演 「絆世代が目指す幸齢化社会」

(講師)九州シニアライフアドバイザー協会 先川祐次さん

(第3部) 地域づくりシンポジウム

「東日本大震災から1年 大牟田の私たちにできること」

(コーディネーター)

東北関東大震災・共同支援ネットワーク石巻事務局 武田和典さん

(復興支援活動者)

大牟田市地域コミュニティ推進課

主査 田中優子さん

医療法人親仁会みさき病院 医療ソーシャルワーカー

緒方弘征さん

(16)福祉教育の推進

小・中学校を対象として、福祉教育を推進し社会福祉への理解と関心を高めるとともに、ボランティア活動と地域福祉活動への参加促進を図った。

福祉教育推進校の指定及び育成

児童・生徒の福祉教育の推進を目的として、高等学校4校、中学校11校、小学校22校を福祉教育推進校に指定し、視覚・聴覚障がい者等をゲストティーチャー（講師）として派遣した。

(派遣状況)

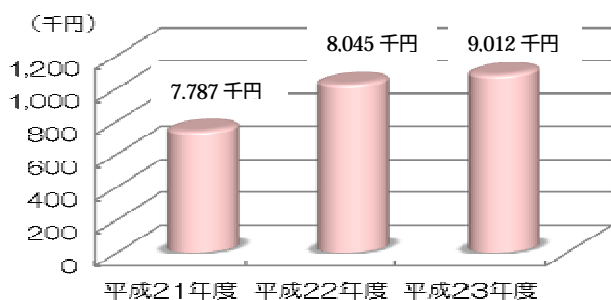
	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)	23年度	前年比(%)
派遣件数	39	105.4	32	82.0	34	106.3

福祉教育推進校連絡会の開催

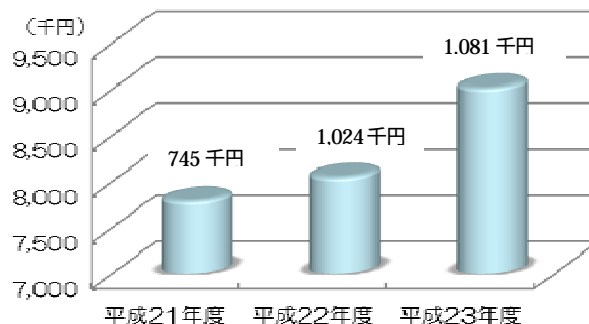
福祉教育推進校が相互の連携を図るとともに研修や情報交換を行うため、連絡会を開催した。

(17) 大牟田善意銀行の啓発強化

一般寄付金の3カ年の推移



賛助会員会費の3カ年の推移



(預託状況)

(単位:円)

	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)	23年度	前年比(%)
会員数(個人・団体)	413	97.6	473	114.5	426	90.1
金額(円)	745,000	114.3	1,024,000	138.7	1,081,500	138.7

(会員数等の推移)

	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)	23年度	前年比(%)	
一般寄付金	件数	430	85.8	459	106.7	462	100.7
	金額	7,787,033	73.4	8,044,998	103.3	9,011,791	112.0
物品寄贈件数	13	161.5	16	76.2	21	131.3	

(18) 総合福祉センターの運営

総合福祉センター利用状況

	21年度	前年比 (%)	22年度	前年比 (%)	23年度	前年比 (%)
会議室等利用件数	812	66.8	1,030	126.8	1,348	130.9
会場使用料収入 (円)	3,543,580	83.7	4,452,543	125.8	4,592,967	103.2
ヘルストロン利用者数	11,513	90.2	13,816	119.9	14,250	103.1
ヘルストロン利用収入 (円)	1,151,300	90.2	1,381,600	119.9	1,425,000	103.1
利用収入計 (円)	4,694,880	85.2	5,834,143	124.3	6,017,967	103.2
会議室等年間利用者数	30,660	61.1	41,508	135.4	44,863	108.1

絆けんこう教室

総合福祉センター利用者や近隣の地域住民を対象に、毎週月曜日、11:00～多目的ルームで「絆けんこう教室」を開催した。

毎回、参加者の血圧測定後に多彩な講師（ボランティア）を招いて、「絆けんこう教室」を実施し、延619人が参加した。

総合消防訓練

平成24年2月23日木曜日の午後、利用者がいる時間帯に、ボランティア連絡協議会と合同で、総合消防訓練を実施した。「喫茶すずらん」より出火したという想定で、社協職員は自衛消防隊をはじめとし、それぞれの役割分担（初期消火班・避難誘導班・非常持出班・救助班）に分かれ、センター利用者を西側非常階段より駐車場へ避難させた。特に今回は、開所予定の3階のデイサービス「えいる」の利用者（1人では歩けない高齢者）が逃げ遅れたという想定で、職員が抱きかかえながら避難誘導を行った。

また、聴覚障がい者等にスピーディに状況を伝達するために、視覚で訴えるプレートを用いたり、高齢者を想定した付き添う形の避難誘導を心がけるなど、総勢約80人の参加者による実践的な消防訓練となった。

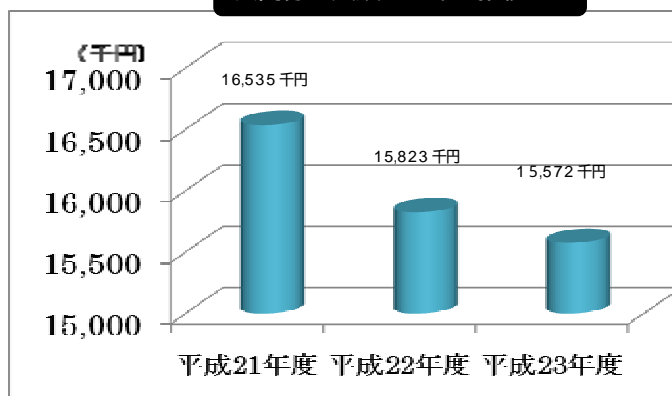
訓練後、消防隊員による消火器の取扱い方、水消火器での実演等行われ、場所を会議室に移し、「建物火災」についての講習も行われた。

(19) 共同募金運動の取組み

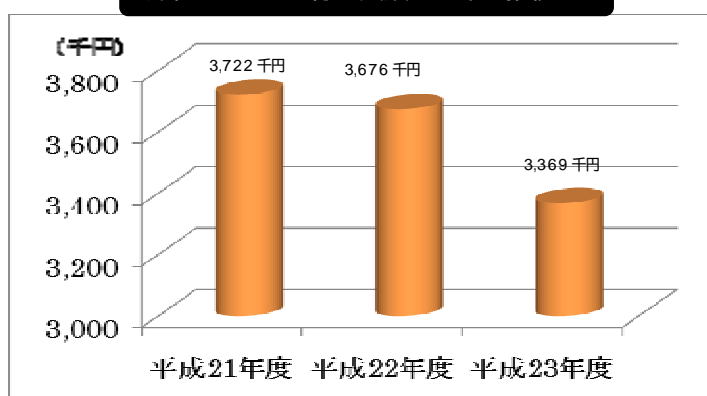
赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金運動について、福岡県共同募金会大牟田市支会と連携して取り組んだ。

赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金実績

共同募金実績3カ年の推移



歳末たすけあい募金実績3カ年の推移



(単位：円)

	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)	23年度	前年比(%)
赤い羽根共同募金	16,534,835	95.9	15,823,021	95.7	15,572,036	95.7
歳末たすけあい募金	3,722,102	114.4	3,675,789	98.8	3,368,966	91.7

共同募金配分委員会の活動

長引く不況、また公民館加入率の減少等にみられる地域組織の弱体化等の事由により、共同募金実績額が年々減少傾向にあることから、昨年度、募金配分団体及び配分交付金の見直しのために配分委員会を設置しガイドラインを策定した。今年度は5月に平成23年度福祉教育推進校への配分審査を行なった。また10月より全戸配布の社協福祉だより“きらり”や社協のホームページ上で平成24年度福祉事業配分についての公募を行い、既存の福祉団体以外にも新たに全市的・先駆的な福祉事業を展開する団体について門戸を開いた。平成23年度配分委員会における活動は以下のとおりである。

平成23年5月11日 第1回配分委員会 (平成23年度事業に対する配分金審査)
福祉教育推進校よりの配分申請についての審査 (中学校6校・小学校19校)
平成24年2月16日 第2回配分委員会 (平成23年度事業に対する配分金審査)
福祉教育推進校 (中学校5校・小学校14校)
福祉団体・NPO法人など(16団体) 交付団体及び交付額について審査
いずれの審査結果も共同募金会理事会・評議員会の承認を経て配分交付を行なった。

第2回共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会&社協“絆”フェスティバルの開催

赤い羽根共同募金の普及、啓発を目的に、22校区の地域住民を対象に、「赤い羽根共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会」を開催した。

また、地域社会における人々の「支えあいの絆」を深めることにより、子ども・高齢者・障がい者にやさしい大牟田のまちを創造していくとともに、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまち」の実現に寄与するために「社協“絆”フェスティバル」を開催した。

【日 時】平成23年9月11日(日) 【会 場】諏訪公園 文化交流ゾーンイベント広場

【参加者】約2,000人

【内 容】 赤い羽根共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会

社協“絆”フェスティバル

子育てきらりフェスタ

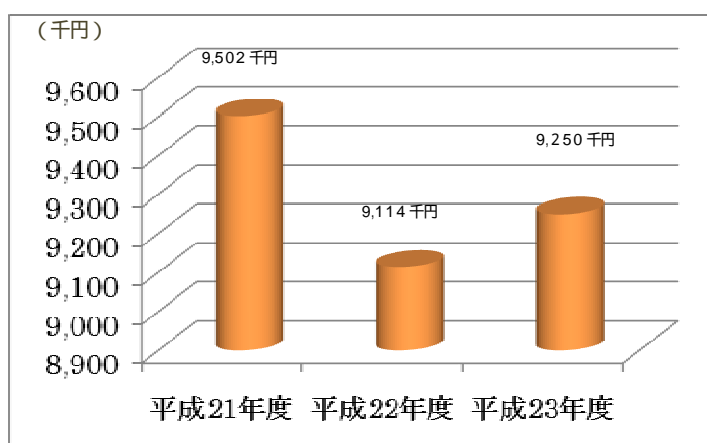
東日本大震災復興支援みちのく物産展

【主 催】赤い羽根共同募金杯校区対抗グラウンドゴルフ大会&社協“絆”フェスティバル実行委員会

【協力団体】大牟田市グラウンドゴルフ協会・大牟田レクリエーション協会 ほか

(20) 日本赤十字大牟田市地区業務の取組み

日赤募金(一般社資)実績の推移



(単位：円)

	21年度	前年比(%)	22年度	前年比(%)	23年度	前年比(%)
一般社資	9,502,425	97.8	9,113,593	95.9	9,249,787	101.5
法人社資	300,000	68.2	275,000	91.7	225,000	81.8
計	9,802,425	96.6	9,388,593	95.8	9,474,787	100.9

平成23年度地域別・職域別・学域別の献血実績について

区 分	受 付 者 (人)	献 血 者 (人)	不 適 (人)
地 域 別 (30カ所)	2,919	2,265	654
職 域 別 (26カ所)	1,587	1,350	237
学 域 別 (9カ所)	736	604	132
街 頭 (イオンモール大牟田 11回)	1,201	869	332
合 計	6,443	5,088	1,355

(21)福祉車両寄贈について

平成23年9月、福岡県共同募金会の平成22年度共同募金A 枠配分により地域福祉の向上を目的とした福祉巡回車を、平成24年2月には、日本財団より高齢者や障がい児・者等の社会参加を目的に車いす対応(スロープ付き)軽車両を配備された。今後、地域福祉活動や福祉サービスなど幅広い分野で活用していきたい。

(22)職員研修の取組み

全職員研修

日 程	講 師	研 修 内 容
6月2日	大牟田市 健康対策課 主査 徳川昭彦 氏	がん検診精密検査未受診者等に対する取り組みから見えてきたもの(研究報告)
6月21日	社協職員 中逸芳佳 " 藤川美名子	障がい児・者医療ニーズ調査結果について やねだん創生塾研修報告
7月26日	大牟田市 地域包括支援センター SW 岡山隆二 氏	地域と社会福祉協議会
8月30日	大牟田市 地域包括支援センター SW 岡山隆二 氏	社会福祉協議会の生い立ち
9月5日	共同支援ネットワーク 代表 武田 和典 氏	【特別編】 被災地から学ぶコミュニティづくり
9月27日	大牟田市 地域包括支援センター SW 岡山隆二 氏	介護保険と社会福祉協議会
10月26日	大牟田市 地域包括支援センター SW 岡山隆二 氏	社会福祉協議会と施設福祉
11月30日	大牟田市 地域包括支援センター SW 岡山隆二 氏	成長する社会福祉協議会のために
12月5日	大牟田警察署 交通課 藤木 氏	安全運転講習会
1月6日	社協職員 藤川美名子・草場望	社協の「みえる化」「魅せる化」を向上させる 研修会報告
2月9日	日本ファシリテーション協会 フェロー 加留部貴行 氏	“絆塾フォローアップ講座” ファシリテーションの意義と実践
3月28日	社協職員 中逸・伊藤 " 中村・吉山・藤山・林	医療ニーズ調査報告 地域支援員活動報告

ホームヘルパー研修

日 程	講 師	研 修 内 容	参加者
4月20日	大牟田市社会福祉協議会 内野 周一	大牟田市社会福祉協議会の概要 ～平成23年度事業計画・重点的な取組み～	37名
5月18日	大牟田市認知症ケア研究会 竜田 誠氏	認知症について ～介護者の対処法～	35名
6月15日	大牟田市市生活衛生課 食品衛生監視員	食品衛生について ～食中毒を出さないために～	34名
7月20日	大牟田市社会福祉協議会 藤好アヤ子	熱中症について ～熱中症を予防するために～	35名
8月24日	大牟田市社会福祉協議会 中村 由美	治療食について ～腎臓病・高血圧症の食事療法～	32名
9月21日	大牟田市福祉課 西山 洋氏	障害者福祉制度改正について ～同行援護の開始とQ&A～	37名
10月19日	大牟田市市民協働推進室 甲斐田みゆき氏	守秘義務について ～個人情報保護法に基づくガイドライン～	37名
11月16日	大牟田市消防署 消防署職員3名	救急救命について ～AEDの取扱い・心肺停止時の救命～	36名
12月21日	(特養)サンフレンズ 林 洋一郎氏 大木 祐子氏	リスクマネジメントについて ～事例検討に学ぶ～	24名
1月18日	大牟田市社会福祉協議会 奥園 和人	平成23年度福祉サービス事業報告について ～各事業実績報告及び今後の展開～	30名
2月15日	大牟田市社会福祉協議会 長野 洋子 中逸 芳佳	新規通所介護等事業について ～ふれあい処えている～	38名
3月21日	大牟田市社会福祉協議会 奥園 和人	平成24年度介護報酬改定について ～介護報酬改定ポイント～	34名

(23)その他の市受託事業について

大牟田市地域包括ケア推進事業

大牟田市地域包括ケア推進事業は、平成22年10月から市より受託事業で、一人暮らし高齢者や高齢夫婦世帯の更なる増加に対する地域包括ケアネットワークを確立するために、高齢者の支援ニーズに応じ、様々な生活支援サービスを包括的に提供できるような地域づくりを目的としている。

この地域包括ケア推進業務を遂行するため、平成23年度も引き続き中央地域包括支援センターへ本会所属の社会福祉士を派遣。具体的な事業内容は、次のとおり。

介護保険事業はもとより、訪問・見守り活動などの制度外サービスや高齢者住宅に関する情報など、地域包括ケアに必要な情報を収集し、ケアマネジャーや地域関係者へ情報を発信。

地域交流施設活用促進のため、地域住民と事業所を繋いだ。

一般高齢者に対して、外出援助、生活支援などの介護保険制度外のサービス（キャロットサービス、ふれあいサロン活動等）の周知啓発を行うなど個別のニーズに応えた。

知的障がい児・者医療支援体制プロジェクトの実施

本市における療育手帳交付者数は、近年増加傾向が続いている。障がい者総体の社会参加は進展しつつあるが、知的障がいの場合、その障がい特性に対する地域認知の広がりが弱いことなどから、知的障がい児・者とその家族が抱える生活課題は多い。その中においても、とりわけ医療機関における知的障がい児・者の円滑な受診体制の環境整備は、健康と命を守る観点から最優先されるべき社会課題であり、その環境整備に向けた取り組みの基礎データとなる医療ニーズ調査が必要であった。そこで、障がい当事者団体や障がい者支援団体・行政等と協働で平成23年1月に「知的障がい児・者医療支援ニーズ調査プロジェクト」を立上げ、知的障がい児・者医療ニーズ等実態調査に取り組んだ。

【知的障がい児・者医療支援ニーズ調査概要】

目 的

知的障がい児・者を対象とした大牟田市での効果的な医療支援を検討するために、知的障がい児・者の医療環境に関するニーズを量的かつ質的な観点から明らかにする。

調査結果の利用方法

知的障がい児・者及びその家族の医療に関するニーズの高さと未充足度を、調査結果から推定し、充足していないニーズを充たすための支援方法等の基礎資料として活用する。

調査のポイント

医療に関する障がい児・者の現状とニーズの把握
障がい児・者の家族が抱える医療及び生活全般
情報発信・受診に関する現状とニーズの把握

調査対象者

施設利用者や団体に加入している障がい児・者及びその家族を対象に 380 人にアンケート調査を依頼し、272 人から有効な回答（有効回答率 71.6%）を得た。

医療ニーズ調査報告書（以下、報告書）」にまとめ、プロジェクトも新たに「知的障がい児・者医療支援体制プロジェクト」として継続活動することになった。主な活動としては、報告書のダイジェスト版及びPPTの作成、啓発用DVDの作成等をおこない、それをもとに様々な団体・機関等へ調査報告会を開催した。調査報告会及びプロジェクト会議実施状況は下記のとおり。

（調査報告会及びプロジェクト会議の実施状況）

日 程	プロジェクト会議及び調査報告名	内 容
4月19日	第6回知的障がい児・者医療支援ニーズ調査PT会議	今後のプロジェクト活動展開
5月24日	第1回知的障がい児・者医療支援体制PT会議	報告会の対象団体・機関等及び配布計画について
6月22日	第2回知的障がい児・者医療支援体制PT会議	報告会に向けたDVD，PPTの内容チェック
7月12日	第3回知的障がい児・者医療支援体制PT会議	報告会に向けたDVD，PPTの内容チェック
8月5日	第4回知的障がい児・者医療支援体制PT会議	報告会に向けたDVD，PPTの内容チェック
9月6日	第5回知的障がい児・者医療支援体制PT会議	報告会ダイジェスト版の内容チェック
9月21日	第6回知的障がい児・者医療支援体制PT会議	報告会ダイジェスト版の内容チェック
9月26日	医療ニーズ調査報告会	保健師対象
10月18日	第7回知的障がい児・者医療支援体制PT会議	保健師対象の報告会の経過・アンケート結果等
10月25日	医療ニーズ調査報告会	地域療育等支援事業会議にて
11月8日	第8回知的障がい児・者医療支援体制PT会議	地域療育等支援事業会議の経過報告等
11月8日	医療ニーズ調査報告会	大牟田市障害者協議会運営会議にて
12月13日	第9回知的障がい児・者医療支援体制PT会議	自立支援協議会プロジェクトについて
1月10日	第10回知的障がい児・者医療支援体制PT会議	民生委員・児童委員ブロック研修会への取組み
1月31日	医療ニーズ調査報告会	特別支援学校教職員対象
2月1～8日	医療ニーズ調査報告会	民生委員・児童委員ブロック研修会にて
2月14日	第11回知的障がい児・者医療支援体制PT会議	民生委員・児童委員ブロック研修会の経過報告等
3月13日	第12回知的障がい児・者医療支援体制PT会議	平成24年度のプロジェクト活動展開
3月28日	医療ニーズ調査報告会	社協職員研修会にて

今後の取組みとして、知的障がい児・者医療支援体制プロジェクトに、より専門性をもたせるためメディカルソーシャルワーカー（MSW）や特別支援学校教諭等の参画を働きかけながら、医師会・歯科医師会や市内の医療機関等に対して、知的障がいの特性理解や医療を受けるための具体的工夫、医療受診を支援するシステムづくりなど、障がい児・者にとっても、医療機関にとっても、誰もが安心して受診できるより良い医療環境の整備を目指していきたいと考えている。

がん検診・特定健康診査啓発事業

個別訪問による有料の各種がん検診の受診勧奨を行い、がん検診の定期的な受診へと結びつけ、訪問・非訪問の対象者の受診状況を分析し今後の受診向上策を検討することを目的にがん検診・特定健康診査啓発事業を次のとおり実施した。

大牟田市の62歳女性（1,304人）40歳女性（655人）50歳男女（415人）にがん検診受診勧奨を行い、41～69歳の男女（1,556人）に特定健康診査受診勧奨の個別訪問を行った。

具体的には、62歳女性対象者（1,407人中）本人面談512名・家族面談197人・不在595人と訪問率92.7%となった。

特に、62歳の対象者の22年度の同年齢・同期間の受診者数と比較すると、乳がん検診については22年度の受診者数22名に対し、23年度は99人と大きく上回る結果となった。

その他、献血会場や地域に根差したイベント等（32カ所）での受診勧奨活動も行った。

(24)空き家再生プロジェクト

大牟田市内に多数存在する空き家を高齢者や障がい者、子育て中の親などを対象としたサロンなどの憩いの場として創出し、「地域活動の拠点」としての機能を持たせることで、地域住民同士の“絆”を深めることを目的に平成22年10月より実施した。平成23年度は、平原校区の「稲又さん家」、三池校区の「湯村さん宅」の2件の空き家を活用し、障がいがある子を持つ親御さんの小物作りや情報交換の場やサロン活動の場等として活用された。

(25)東日本大震災復興支援についての取組み

平成23年3月11日、東日本にて未曾有の巨大地震が発生。この直後からテレビや新聞等で流れたあまりにも悲惨な状況に言葉を失った。被災地の方々の生活や地域の再生には、支援される側の立場に立ったタイムリーな支援が必要であると考え、まず12日には総合福祉センター内に義援金箱の設置、14日の早朝を皮切りに連日街頭募金を実施した。また、様々な情報が飛び交う中、確かな情報を入手し、必要な人材・物資などを供給していくための体制づくりとして、市内の3団体（大牟田市介護サービス事業者協議会・大牟田市障害者協議会・大牟田市社会福祉協議会）で、「東日本大震災復興支援プロジェクトおおむた」を立ち上げた。派遣員を絶え間なく被災地に送る「絆リレー」による信頼関係づくりと、塩害杉で作ったベンチをツールとした「コミュニティ再生の場づくり」を主活動とした。その後9月には新たに大牟田市も加わり、様々な団体と連携しながら、被災地における支援活動での学びを地元大牟田の町づくりに生かしていくことを目的に、「東日本大震災復興支援～絆～プロジェクトおおむた」を立ち上げた。今後も、震災により崩壊したコミュニティの再生、高齢者・障がい者・乳幼児等の支援を含め、幅広い視点から支援方法の協議や具体的な復興支援を行っていく。

(26)福祉バス及びリフト付きバスの運行

福祉団体等の福祉の増進のため、各種大会や研修会等の参加に際して福祉バスを運行した。

また、交通手段が困難な人を対象に、車椅子のまま乗降できるリフトバスを貸し出した。

さらに、福祉行事のための荷物等を運搬する軽トラックの貸出も実施した。

	21年度		22年度		23年度	
	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数
福祉バス	83	1,889	83	1,896	77	1,851
リフトバス	22	111	35	152	23	115
軽トラック					6	12

(27)他都市よりの視察状況

月 日	視 察 受 入	研 修 内 容
8月26日	共同募金会久留米市支会	募金活動の取り組みについて
9月13日	みやま市開校区社会福祉協議会	地域福祉活動について
9月26日	伊万里市ボランティア連絡協議会	キャロットサービスについて ボランティア活動状況について
10月18日	日田市桂林地区社会福祉協議会	サロン活動について
10月26日	みやき町ボランティア連絡協議会	キャロットサービスについて
11月10日	長野県御代田町社会福祉協議会	認知症対策事業について
11月17日	大刀洗町社会福祉協議会	校区社協活動について
1月23日	嘉麻市NPO団体	社協事業について 東日本復興支援の取り組みについて
2月 6日	久留米市犬塚校区社会福祉協議会	大牟田市の地域福祉活動について